

# TEMPUS テンプス

2020年(令和2年) **72**号

ぼっかんさんの紀北旅行で  
一行がめぐった名所



淡嶋神社（あわしまじんじゃ）



紀州東照宮（きしゅうとうしょうぐう）



粉河寺（こかわでら）



紀三井寺（きみいでら）



和歌浦（わかづら）

## も く じ

江戸時代の旅～ぼっかんさんの紀北旅行記～

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その2

和泉葛城山でブナの種子が大豊作ーこの機会を逃さないー

／ のこぎり屋根の工場建物を調査ー株式会社テザック三ツ松工場ー

貝塚学子ども講座：学びのポイントラリープログラム「拓本でしおりを作ろう」

／ 小学校巡回展示「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」

古文書をひも解く～江戸時代の民衆の旅～ ／ 澤薬師堂の位牌調査

文化財講座・セミナー

# 江戸時代の旅～ぼっかんさんの紀北旅行記～

11月22日（日）までの期間、貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）では、企画展「江戸時代の人びとの旅行記～古文書から見た様々な観光名所～」を開催しています。この企画展では、江戸時代の人びとの旅行について記した古文書を展示するとともに、旅の行程や人びとが訪れた観光名所について、パネル展示で紹介しています。

この企画展の中で大きく紹介しているのが、貝塚ト半寺内（ぼくはんじない）の領主であった、願泉寺ト半家（がんせんじぼくはんけ）の一行が紀伊国（現在の和歌山県）の北部地域（紀北）を旅行した記録「紀の路御遊覧日記」（きのじこゆうらんにつき）（右写真）です。今回は、この日記の概要について紹介いたします。



「紀の路御遊覧日記」  
和歌山県立文書館蔵

## 紀北旅行の行程

第10代ト半了真（りょうしん）をはじめとする総勢44名（駕籠人足（かごにんそく）7名を含む）の一行は、文政7（1824）年の旧暦9月23日から29日（現在の10月下旬頃）にかけて、紀伊国北部を旅しました。

9月23日、一行は貝塚を出発し、犬鳴山〔泉佐野市〕から和泉国と紀伊国の国境を越え、その夜は①粉河（こかわ）〔和歌山県紀の川市〕で一泊しました。翌24日は②岩出〔和歌山県岩出市〕、25日は③紀三井寺（きみいでら）門前、26日は④和歌山城下、27日は⑤加太（かた）〔③～⑤は和歌山県和歌山市〕でそれぞれ宿泊しました。28日には再び和泉国に戻り⑥尾崎〔阪南市〕でもう一泊

し、翌29日の夜に貝塚へ帰りました（左図参照）。

6泊7日の旅行中の移動距離は約100kmで、一部紀の川の渡し舟などの水上交通を使っただけの移動もありますが、大部分は徒歩と駕籠に乗っての道中でした。



願泉寺ト半了真一行の紀北旅行の行程図

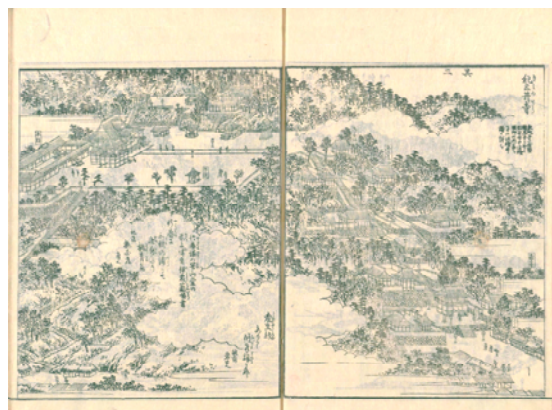
基図：平凡社『和歌山県の地名』特別附録「和歌山県全図」



## 紀北旅行での観光名所

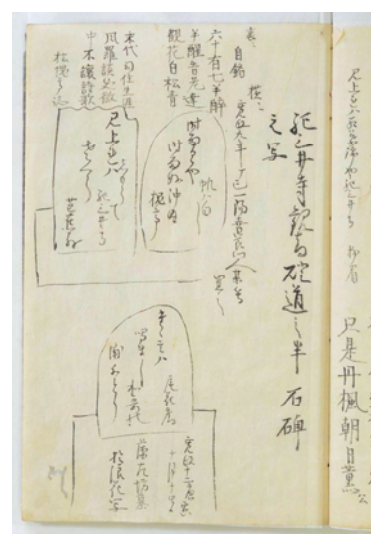
この紀北旅行は、各地の寺社を参詣し、名勝を遊覧しながらの観光旅行でした。日記に記された主な観光名所を紹介すると、【23日】犬鳴山七宝瀧寺(しっぽうりゅうじ) [泉佐野市]、【24日】粉河寺、如意山厄除観音寺(長田観音) [和歌山県紀の川市]、【25日】紀三井寺、【26日】玉津島神社、和歌浦(わかのうら)、紀州東照宮、【27日】本願寺鷺森(さぎのもり)別院、淡嶋神社、【28日】大川八幡神社、報恩講寺(ほうおんこうじ) [25～28日、和歌山県和歌山市]、【29日】林昌寺の躑躅岡(つつじがおか) [泉南市]、蟻通(ありどおし)神社 [泉佐野市] などです。これらの多くは、当時の観光ガイドブックと言える『和泉名所図会』(いずみめいしよずえ)、『紀伊国名所図会』(きいのくにめいしよずえ)に掲載されており、当時一般的にも知られた観光名所であったことがわかります(右上写真)。また、訪れた先々では和歌や漢詩、俳諧等を詠んだり、参道等に建つ石碑に彫られた文字を書き写したり(右下写真)といった、当時の地方領主階級ならではの旅の楽しみ方をしていたことが、日記からうかがい知ることができます。

今回の記事や企画展を通じて江戸時代の旅行者になった気分を味わっていただくとともに、再び安心して旅行を楽しめるようになった際には、今回紹介した古くからの観光名所を訪れていただきたいと思います。



「紀三井寺」図

『紀伊国名所図会』巻之五より  
(国立国会図書館  
デジタルコレクションより転載)



紀三井寺の参道の石碑  
を書き写した部分

## 企画展「江戸時代の人びとの旅行記～古文書から見た様々な観光名所～」

会 期 11月22日(日)まで開催中

会 場 貝塚市郷土資料展示室(貝塚市民図書館2階)

観 覧 無料

休室日 毎火曜日、10月31日(土)、11月4日(水)



## 第121回かいづか歴史文化セミナー 講演会「ぼっかんさんの紀北遊覧をめぐる」

日 時 11月1日(日) 午後1時～3時30分

会 場 貝塚市民図書館2階視聴覚室

講 師 鶴崎裕雄さん(帝塚山学院大学名誉教授)

近藤孝敏さん(元泉佐野市教育委員会学芸員)

大川直美さん(東大阪市人権文化財課調査員)

定 員 30名(先着順) ※参加費は無料です

10月9日(金) 午前9:00から申込開始

参加は8ページ  
の申込先まで



## 国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その2

本市木積（こつみ）にある国宝孝恩寺観音堂（通称：「釘無堂（くぎなしどう）」）の保存修理事業は、今年4月以降、現地での工事作業をしばらく中断し、工事業者の作業場で瓦の焼成などが行われています。また、並行して屋根から降ろされた瓦の調査や観音堂の耐震診断が進められています。今号では、観音堂の耐震診断についてお知らせいたします。

平成28（2016）年に起こった熊本地震で熊本城が大きな被害を受けたニュースは記憶に新しいことですが、地震から人びとや文化財を守るために耐震対策は欠かせないものです。

孝恩寺観音堂は、文化財建造物であるとともにお寺の本堂として使用されていることから、今後想定される南海トラフ地震等の地震による損壊からその文化財的価値を守り、また観音堂を利用する人びとの安全を確保するために、今回の保存修理工事にあわせ、耐震補強工事が必要か否かを判断するための耐震診断が行われました。

まず、耐震診断のための予備調査として地盤調査が行われました。地盤調査は、ボーリングマシンを使って、地盤の硬さや、土層の組成を確認するもので（右写真）、その結果、孝恩寺境内の地盤は「第1種地盤」（硬い地盤）であると評価されました。



孝恩寺境内の地盤調査  
（写真提供）公益財団法人  
文化財建造物保存技術協会

続いて、地盤調査の結果と観音堂の構造特性に基づいて耐震診断が行われました。この診断の過程で、柱の傾斜、曲げ折れ、柱脚の浮上りの程度を確認し、観音堂の耐震性能を調べました。その結果、観音堂は文化庁が示す耐震性能のうち、大きな変形は生じるが、倒壊しないとする「安全確保水準」を満たしていることを確認しました。この結果を受けて、今回の修理事業では、耐震補強工事は必要がないと判断されました。



**国宝孝恩寺観音堂保存修理事業の進捗状況については、前号で紹介した市役所本庁舎ロビーでの展示「国宝孝恩寺観音堂の修理」のほか、貝塚市ホームページでの紹介およびYouTube「貝塚市公式チャンネル」での動画配信を行っています。**

### ● 国宝「孝恩寺観音堂」令和の大修理ホームページ

- ① 貝塚市ホームページの下の方にある「ピックアップ情報」の「貝塚の文化財」バナーをクリック
- ② 「メニュー」の「施設紹介」から「国宝「孝恩寺観音堂」令和の大修理」ページへアクセス

### ● YouTube「貝塚市公式チャンネル」アドレス

<https://www.youtube.com/user/CityKaizuka>

※現在第1弾の「国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その1」（令和2年5月15日付）を配信しています。

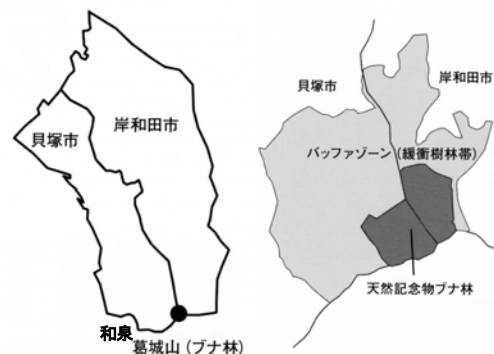




## 和泉葛城山でブナの種子が大豊作－この機会を逃さない－

貝塚市・岸和田市の南端に位置する和泉葛城山に広がる国天然記念物のブナ林では、保護増殖事業を進めています。ブナが世代をつないでいくためには、結実して種子から若木が育つことが大事です。しかし、近年、開花して結実しても種子の量が少なく、若木が育つ位の豊作までにいたっていませんでした。前回の種子の大豊作は平成5（1993）年で、この年から天然記念物指定地域（8ha）で種子を集めて選別し、その選別した種子を苗畑にまいて育て、育った苗を指定地域の外側周辺に設けた緩衝樹林帯（バッファゾーン）に植樹する事業が始まりました。植樹は2年後の平成7（1995）年から行われ、その後の豊作年に採集した種子から育てた苗も合わせ、平成18（2006）年にかけて植樹が行われました。

研究者の報告によると、今年は、大量の開花や結実が見られる場合の特徴である、葉が小さくなったり、色が薄くなったりといった変化が見られるとのことで、27年ぶりの大豊作となることが予想されます。この機会を逃すことなく、今回も種子を計画的に採集して苗を育て、ブナ林の保護増殖事業を実施していく予定です。



実をつけたブナ

## のこぎり屋根の工場建物を調査－株式会社テザック三ツ松工場－

近代の貝塚市域では紡績、織物工場が多くつくられ、市域を代表する産業の一つとなっていました。こうした工場建物の特徴は、「のこぎり屋根」と呼ばれる、のこぎりの歯のようにギザギザの屋根です。機械を入れるため屋根を高くし、北側に設けた窓は直射日光を抑え、間接光で安定した光を取り込む効果がありました。時代が経過し、産業構造が変わるとともに、のこぎり屋根の工場は次第に姿を消していきました。

今回は、株式会社テザック三ツ松工場に残された、のこぎり屋根の工場の調査について紹介します。7月中旬に会社からの連絡で、8月から解体することがわかり、記録保存のため、写真撮影や図面作成の調査の許可を得ました。調査は、7月29日から31日までの3日間行い、建物の実測については、公益社団法人大阪府建築士会の協力を得ました。

この工場は、明治45（1912）年4月設立の三松織物株式会社により、大正2（1913）年に建設された建物で、107年が経過しています。その後、会社は合併して帝国産業株式会社（株式会社テザックの前身）の工場となりました。このような建物が解体されることは残念ではありますが、この調査によって写真や図面の記録を残すことができました。



テザック三ツ松工場位置図



のこぎり屋根の工場外観

## 「拓本でしおりを作ろう」

8月23日（日）午後1時より、貝塚市民図書館2階視聴覚室において、貝塚学子ども講座「拓本でしおりを作ろう」を開催しました。

拓本は、コピー機やカメラもない時代から文字や文様を写し取る方法として伝えられてきました。考古学の分野では、出土遺物・石造物を記録する方法の一つとして取り入れられています。

今回の講座は、瓦や土器などに直接触れ、拓本の取り方を学ぶとともに、拓本で写し取ったいろいろな文様を活かして<しおり>を作成しました。

まず、文様のある瓦や土器を選んで拓本で文様を写し取っていきました。拓本は「湿拓（しったく）」と呼ばれる墨を使った方法で行いました。

次に、この拓本を使って<しおり>を作りました。最初に、できあがった拓本を切り抜きました。そして、<しおり>の台紙にならべて、のりで貼り付けていきます。最後に、ラミネート加工をして、切り分けて、紐を結びつけて、<しおり>を完成させました。

参加者の方からは「細かい文様を写し取るのがむずかしかったけど、かわいいくしおり>ができてうれしかった」といった感想がありました。

今後も子どもたちに、歴史や文化財に親しんでいただけるような、企画に取り組んでいきます。



瓦の文様を写し取る参加者



できあがった<しおり>

## 小学校巡回展示「東洋の魔女と 1964年東京オリンピック」

平成30年度の「岩橋善兵衛の科学技術」、令和元年度の「貝塚の古墳」に続き、今年度の第3弾では「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」を9月25日から開催しています。市内11小学校を巡回し、12月16日で終了の予定となっています。

今回は、昭和39（1964）年当時の資料・写真などを展示して、子どもたちに地元のニチボー貝塚バレーボールチームを主力とする全日本女子代表チームの活躍で東京オリンピックの金メダルを獲得したことや、東海道新幹線開通など高度経済成長で発展していった日本の様子を伝えていきます。



▶TOKYO1964  
ニチボーバレー  
ボールチーム  
写真入りサイン色紙



『毎日グラフ』別冊 ▶  
12人の魔女  
勝利の記録・根性物語

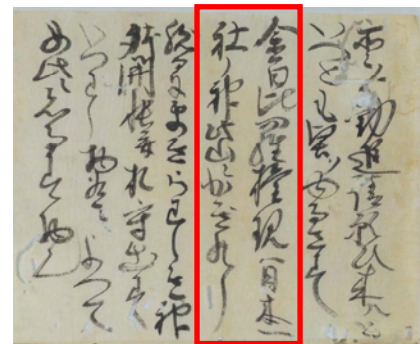


## 古文書をひも解く

## ～江戸時代の民衆の旅～

2頁の記事同様、企画展で展示している古文書の中から、民衆の旅に関する古文書を紹介します。当時の民衆にとって旅はそう簡単に行けるものではありませんでした。何らかの理由づけが必要だったのです。そのため例えば、町や村の代表として有名な寺社のお札をもらいに行くことなどを理由に旅をしました。泉州からの道中で大都市や名所に寄り道をして、物見遊山（ものみゆさん：気晴らしに見物や遊びに行くこと）をするのが数少ない楽しみでした。そして、自らの旅の道中を日記としてまとめた「道中記」も作られるようになりました。

例えば、福田村〔貝塚市福田〕の庄屋を務めた福原家には、寛政10（1798）年に書かれた「おほへ」（＝覚え）の表題のある小さな帳面があり、「兵庫生田大明神」（＝生田神社〔兵庫県神戸市中央区〕）をスタートに湊川、明石、赤穂〔以上、兵庫県〕、牛窓〔うしまど：岡山県瀬戸内市牛窓町〕と西進し、瀬戸内海を船で渡り、丸亀〔まるがめ：香川県丸亀市〕へ、さらに金毘羅（こんぴら）の愛称で有名な金刀比羅宮〔ことひらぐう：香川県琴平町〕へ向かう旅の道のりが記されています。



「おほへ」（＝覚え）の中の1コマ  
「金毘羅権現ハ日本一社ノ神、此山  
ニかざれり」とあります。  
（本市指定文化財 福原家文書）

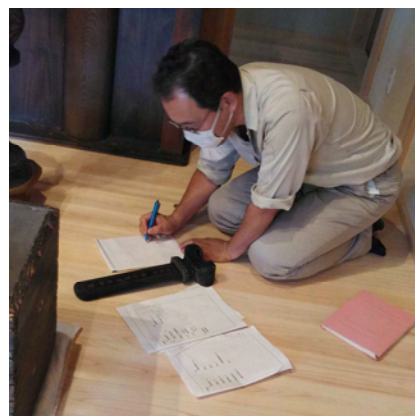
さらに、この記録には、道中の名所旧跡の記述が多く、例えば湊川神社では楠木正成（くすのきまさしげ）の墓〔神戸市中央区〕、一谷（いちのたに）では敦盛公（あつもりこう：一の谷の合戦で敗れた平敦盛）の石塔〔神戸市須磨区〕、善通寺〔ぜんつうじ：香川県善通寺市〕では空海（弘法大師）生誕の話などを詳しく記しています。

このように江戸時代の旅では、道中で見聞きしたことを「道中記」としてまとめ、家族への土産話や、自分の子孫に旅の様子を伝えようとしていたのかも知れません。

## 澤薬師堂の位牌調査

本市澤地区にある薬師堂はかつて医王寺（いおうじ）という寺院が前身でした。医王寺は、江戸時代には櫛の神様として知られる八品（やしな）神社の神宮寺で、明治に入り廃寺となりました（現在は町会で管理）。

薬師堂は、平成30年9月の台風21号により屋根などが大きな損傷を受けたため、大幅な改修工事を行うことに伴い、内部の撮影などを実施しました。その際、沢町会から薬師堂にある位牌の調査依頼を受け、建物の改修を終えたことを機に、7月9日調査を行いました。



位牌調査の様子

調査により、医王寺の住職やその師匠のものと推測される位牌など22点を確認しました。また、開基とされる榮純律師（えいじゅんりっし）は、位牌から応永23（1416）年に亡くなっていることなどがわかり、600年以上前から明治維新まで澤に医王寺があったことが、今回の調査で明らかになりました。

# 文化財講座・セミナー

令和2年

## ◆10月

郷土 7日(水)・14日(水)・21日(水) 13:15～15:45  
古文書講座62 **1班** 「ぼっかんさん紀の路を行く」

郷土 9日(金)・16日(金)・23日(金) 13:15～15:45  
古文書講座62 **2班** 「ぼっかんさん紀の路を行く」

山手 16日(金) 19:00～20:30 歌と語りで綴る愛物語  
貝塚みずま『お夏清十郎』～オペレッタ(音楽劇)～  
社会教育課職員による「お夏清十郎」についての歴史ガイドがあります。  
※古文書講座、貝塚みずま『お夏清十郎』はすでに申込受付を終了しています。

## ◆11月

郷土 1日(日) 13:00～15:30 第121回かいづか歴史文化セミナー  
講演会「ぼっかんさんの紀北遊覧をめぐって」

講演会への参加をご希望される方は

住所、氏名、電話番号を、電話・ファックス・Eメールのいずれかで、下記までお申込みください。

10月9日(金) 9:00から申込開始

〒597-8585 貝塚市島中1丁目12-1(貝塚市民図書館2階)

貝塚市教育委員会社会教育課

TEL 072(433)7205 / FAX 072(433)7053

歴史 23日(月) 10:00～12:00、13:00～15:00

はくふだまつり 2020～貝塚場所～

博物館カードはくふだを配布している泉州地域の博物館施設  
による様々なワークショップを体験できます。〈事前申込制〉

※申込など詳細は、「広報かいづか」10月号をご覧ください。

## ◆12月

令和3年

## ◆1月

現地 31日(日) 午後 第122回かいづか歴史文化セミナー  
現地見学会「(仮)紀泉鉄道の痕跡を訪ねて」

※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館 山手 : 山手地区公民館 2/14(日)

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期または中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。



### 貝塚市歴史展示館(ふるさと知っとこ!館)企画展

#### 「貝塚駅周辺のいま・むかし」12月28日(月)まで開催中

大型商業ビルが解体されるなど、南海貝塚駅周辺で目まぐるしい変化が見られる中、1950年代以後の移り変わりを写真パネルで紹介します。

〈会期中の休館日〉

・毎火曜日

・11月4日(水)

### かいづか文化財だよりテンプス72号



令和2年10月2日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市島中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行:各1,000部



貝塚市イメージ

キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」  
をモチーフとしたデザ  
イン。